

RAISING BILINGUALS

英語力の正しい伸ばし方

児童英語 年齢の特性に合わせた方法で学べば
日本にいながらにして高度な語学力を身に付ける道も

小学5～6年の英語が正式な教科になる、大学入試改革でスピーキングを含む4技能が試される。そんなニュースを聞くと、親は不安に駆られるものだ——やはり早くから英語を習わせるほうがいいのか、英語教室に楽しく通うだけで将来役立つ英語力が身に付くのか、と。

答えは、子供の状況や目指すゴールによって千差万別。それでも外国語習得の研究成果を基に考えれば、日本のように日常生活で英語を使わない環境で学ぶ限界と、それを乗り越えるのに必要な条件が見えてくる。

乳幼児の英語教育熱が高まるなか、親がまず悩むのは「早いほうがいいか」という問題だろう。親としては、幼少期に学ぶ始めれば外国語も母語と同じ要領で身に付くと期待しがちだが、そう簡単な話ではない。確かに幼少期は言語習得に適した時期で、各言語に触れる時間が十分あれば複数の言葉を自然な形で覚えられる。日本人家庭の子がプリスクール（未就学児を英語で保育する施設）に週5日通うなどして、ネイティブの子と大差ない流暢な英語を話す例も増えている。

子供だけに学ばせない

だが多くの家庭にとって、プリスクールという選択は経済的にも心理的にもハードルが高い。日本語の会話に支障が出ることは通常ないが、日本語での読書やコミュニケーションが手薄になる可能性もある。そのため大半の家庭が選ぶのが週1回、1～2時間の英語レッスンを受ける形式。この場合には、幼いうちに学ぼうと自然に身に付きやすいという単純な図式は成り立たない。赤ちゃんが母語を覚える際には、自然な環境での1万時間のインプットが必要とされる。しかし週1回の英語教室では、インプットの量も質も母語の状況には程遠い。

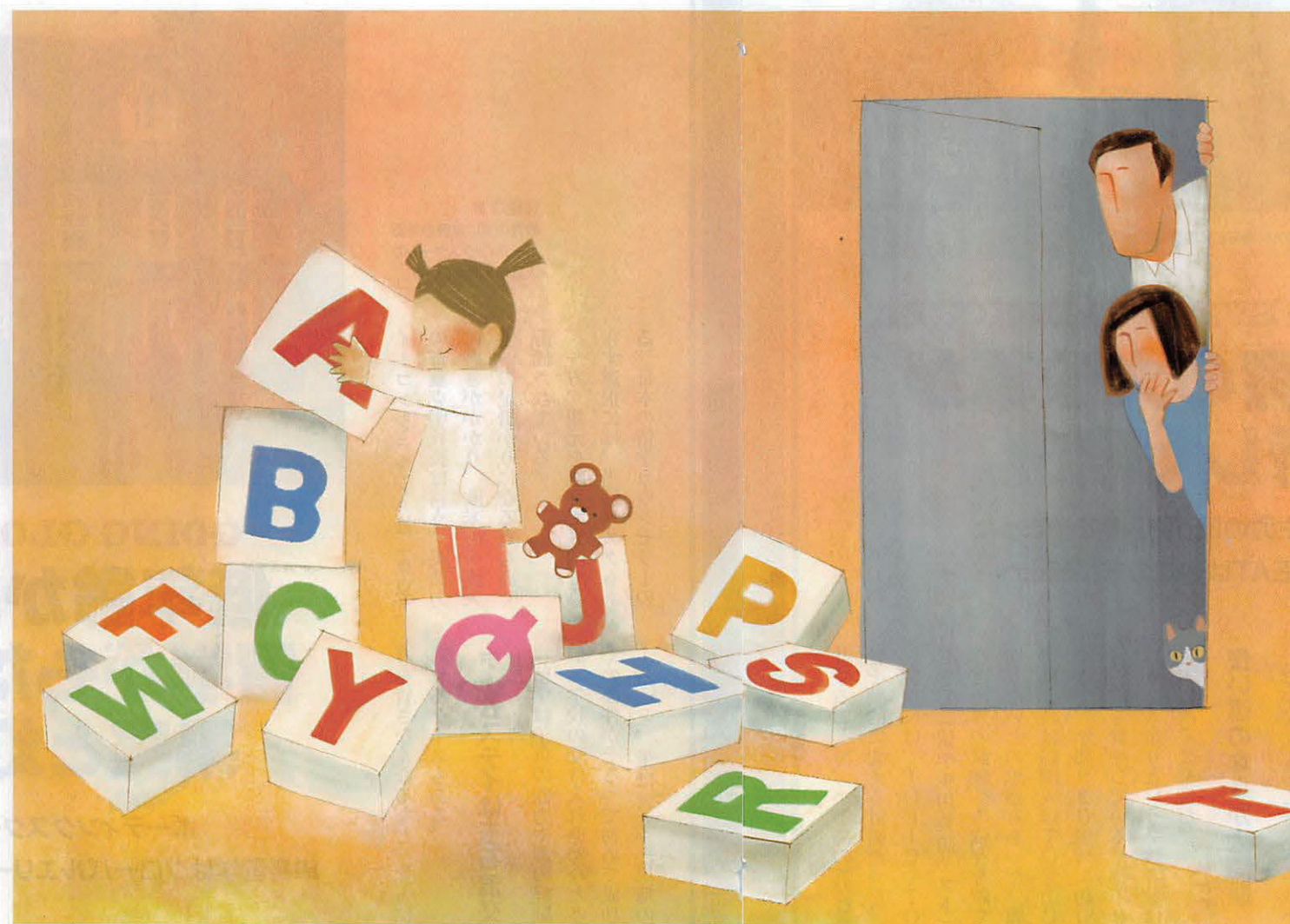
そうした環境では早くから学ぶことより、家庭で日本語の豊かなコミュニケーションを意識することが後の英語力につながる。一方、教室や家庭である程度英語に慣れると新たな悩みが出てくる。インターナショナルスクールなどの特殊な進路を選ばない限り、子供時代に「英語に親しむ」以上の高度な語学力を

獲得するのは無理なのか。

そうとは言い切れない。日常会話以上の深い内容を理解・発信するには、耳で得る情報から文字情報の処理への移行が不可欠だ。そのため文字への対応が容易になる小学生のある時点で、「読む」「書く」を含む総合的な英語力の育成に挑戦する選択肢もあり得る。

とはいえ「英語に親しむ」段階と、英文を読みこなし、自分の意見を表現できる段階には大きなギャップがある。小学1年生前後の英語初心者か、1年ほどで中学卒業レベルに達することと注目される早稲田アカデミーIBS（東京）によれば、このギャップを超える条件の1つは何歳までにどの水準に達するという明確な目標設定だ。

「なんとなく楽しく続けているだけでは、なんとなくの成果しか残らない」と、松井義明主宰は語る。



を感じ取り、英語を英語のまま理解できるようにするという。大量の英語に触れる手段として多くの専門家が勧めるのが、オックスフォード・リーディング・ツリーのようにレベル分けされた本を活用して大量の英文を読む「多読」だ。IBSではフォニックス（スペルと発音の

関係）の学習と並行して、初級クラスで月に5万語、上位クラスは50万語の本を読む（公立中学校の教科書は3年間で1～2万語）。「日本語が入り込む余地

発音のハンディも克服可能

もないほど平易な本を大量かつスピーディーに読むことで、単語の語感や使い方で体に染み込む。多読は日本にいながら留学するような効果をもたらすと、松井は言う。

中学・高校の学校教育は今も、

日本語に訳しながら英語を理解する方式が主流だ。だが英語で討論やエッセイ執筆ができる水準を目指すなら、中学生以降の場合も日本語を介さず英語を英語で理解する訓練が有効だと、JPREP斉藤塾（東京／山形）の斉藤敦代表は指摘する。

一方、小学校高学年以降は物を分析的に把握する能力が高くなるため、文法規則は明示的に教えるほうが効率的。「ネイティブの子供は80ほどの主要な規則動詞の活用を何度も間違えながら10年かけて身に付けるが、中学生ならリストにして一気に覚えられる」と、斉藤は言う。話を論理的に組み立てる、自分の意見を文章にまとめるといった能力も主に10代以降に磨かれるものだ。

ハンディがあるとされる発音などの音声面も克服は可能なようだ。日英の音韻の違いを理解し、口や舌の動きを具体的に学ぶことで多くの生徒が正しい発音を身に付けていると斉藤は言う。「目指すのはネイティブになることではなく、英語で堂々とコミュニケーションできること。年齢の特性に合った合理的な学習法で学べば十分に高いレベルまで行ける」。